

## 熊本大学学術リポジトリ

## Kumamoto University Repository System

Title	長谷川教授の廿年勤続祝賀會に際して
Author(s)	茂森, 白影
Citation	龍南會雜誌, 160: 104-104
Issue date	1916-03-28
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6582">http://hdl.handle.net/2298/6582</a>
Right	

おぼろ月窓にさし來ぬ反魂の香を焚かせていざ眠らまし。

——五、二二、日記より——

### 長谷川教授の廿年勤續祝賀會に際して

茂 森 白 影

長々谷川の水おやみなし君がはたとせまた遠きかな。  
はたとせの流れあつめて谷川やゆくての海に浪光りあり。  
たねまなきいさほしこめて龍田山樹々の翠も深まさりけむ。

### 復活の日に

有 田 俠 花

目にみねぬ心のおさめ怠りつ悲しき事の數つくりけり。  
うつろなる心は永久にうつろなれば我なまじよ生をうけまじ。  
只一つの光あらなし我が心物たらざれば悲しみのわく。  
いひしれぬうれひ覺ねぬ此の日頃めに見ぬ心の凹み見いでつ。  
ふと氣づく心の傷によごとひごと自らがうつつちは重しな。  
みづからがうちひらくべき新らしき道ふむ朝の光りうれしも。  
いにしへの美しきさがにあこがれの日のみつけば心狂ほし。